

◎不読率の増加について思うこと

全国学校図書館協議会の学校読書調査によると、今年5月の1ヶ月間に、本（教科書、学習参考書、漫画、雑誌や付録を除く）を1冊も読まなかった子どもの割合（不読率）は、小学生が9.6%、中学生が24%、高校生が55.7%で、小学生は4年連続、中高生は2年連続の増加だそうです。同協議会の磯辺延之調査部長はその要因について、**1人1台の学習用端末の配備を進めた政府の「GIGAスクール構想」の影響と教員の働き方改革の影響による朝読書の廃止**、この2点を挙げています。また、教科書や本をじっくり読んで考える授業ではなく、端末を使って短時間に答えを見つけるタイムパフォーマンス（時間対効果）重視の授業が行われるようになったと指摘しています。（※10月28日の読売新聞の記事を参考にしています）

この記事からも、子どもたちを取り巻く環境の変化が、様々な影響を及ぼしていることに気づきます。子どもたちの本離れ、活字離れは子どもたちのせいではないということです。

また、その影響は不読率の増加だけではなく、心の安定、生活態度にも表れていると感じます。以前はあまり見られなかった、読み聞かせの話に集中力を持続できない子や、話を聴く姿勢を保つことができず、数分で机に突っ伏してしまう子どもたちを見ることも珍しくありません。人とコミュニケーションをとるための基本であり、礼儀でもある、話を聞く**姿勢**、そして読み聞かせに対する**好奇心**、話の内容を理解・想像するための**思考力**が数年前とは変わってきていると感じています。

読み聞かせをしていると、教室のあちこちでヒソヒソと話し声が聞こえてくることがあります。今日はなかなか手強いぞと思いながらも読み進めていくと、途中から子どもたちの私語は止み、いつの間にか皆静かにお話の世界に入り込んでいます。このようなことは度々経験します。まさに**本の力**です。こうした経験の積み重ねにより、心は育まれると思っています。



ずっとおしゃべりをしていたはずの子の感想には、「マジでかんだうした」と書かれていました。「本を読みなさい」という以前に、子どもたちの置かれている環境を広い視野で見つめ、子どもたちにとって本当に大切なことは何かを、私たち大人こそ真剣に考えなければいけないのかもしれないかもしれません。

◎いい本を、みつけれられますように！

10月に配布しました図書紹介リーフレット「いい本、みつけた」で紹介した本を、展示、貸出しをしています。リーフレットを見て興味を持った本を実際に手にとって見ることができます。好きな本に出会ってほしいとの思いです。親御さんにも是非読み聞かせや家読の選書の参考にさせていただけたら嬉しいです。



◎「みんなの読書感想画」掲示終了

夏休みに描いてもらった読書感想画の中から、テーマ図書として75冊を展示、貸出しをしました。10月10日～11月23日の期間で126冊の貸し出しがありました。今年は市内の**15小学校と2中学校の参加**でした。毎年、児童・生徒のみなさんに参加のお声掛けをしていただき、ありがとうございます。中学生の皆さんがもっと参加したいと思えるような企画も考えていきたいと思っています。ご意見、ご希望などありましたら、ぜひお寄せください。

素敵なクリスマスと新年をおむかえください。

